

宮崎発見隊 ～県の特産物を調べよう～（第四学年）

宮崎市立生目台西小学校指導教諭 郡司 美和子

1 はじめに

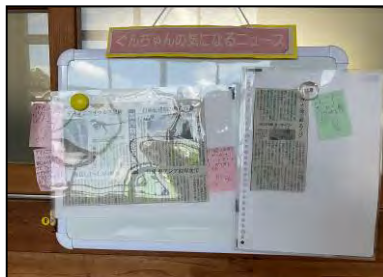
本校はN I Eの取組として、週に1回程度NIEタイムを設け、新聞記事の読み取りや要約、感想記入などを行ってきた。また、学級では、4月より朝のスピーチで新聞記事の紹介を行うようにした。普段、児童は出来事についての記事を読むことが多い。そこで、本授業では、地域の特産物についての関心を高めさせていくことをねらい、生産者の思いや願いにも触れられた記事を活用することにした。



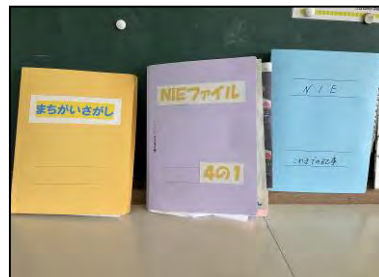
【スピーチをする児童の様子】



【スピーチの記事を掲示】



【教師の気になる記事を紹介】



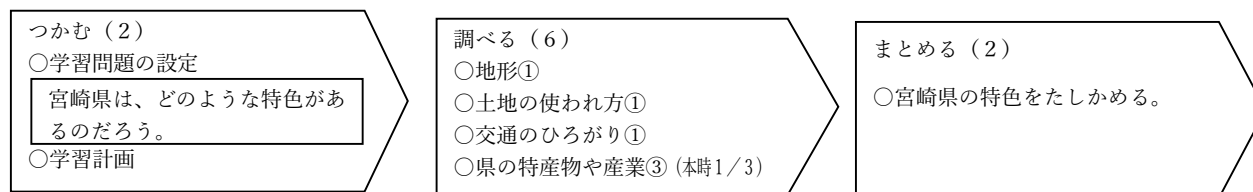
【切り抜き記事のファイル】

2 授業の展開

(1) 単元について

本単元は、自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置に着目しながらそれぞれについて調べ、関連付けたり、総合的に捉えたりすることで県の概要や特色を考えていく学習である。

≪指導計画（10時間）≫



(2) 本時について

本時は、上記の図中「調べる」段階に位置づく授業であり、『県の主要な産業や特色ある産業の分布』について調べる学習の1時間目にあたる。

本時の学習では、延岡市の特産物である「空飛ぶ新玉ネギ」について調べ学習を行う。ユニークな名前の由来を調べさせることで、県の特産物に対する興味をもたせたい。さらに、授業の後半では、他のブランド化された特産物とそれらに付けられた名前を紹介することで、県の特産物への関心を高めるとともに、これからの調べ学習への見通しをもたせていきたいと考える。

(3) N I Eとの関連

本時の学習では、「新聞記事」を活用し「空飛ぶ新玉ネギ」について調べ学習を行う。記事からは、学習問題に対する答えを見つけるだけでなく、生産地や収穫時期、気候とのかかわり、生産者の思いや願いなどについても読み取らせていく。

授業の後半では、新聞から読み取った内容を調べる視点にするとよいことに気付かせ、今後の調べ学習への見通しをもたせていきたいと考える。

3 本時の学習指導

(1) 目標

県の特産物について関心を持ち、その特色について調べようとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 学習過程

主 な 学 習 活 動	留意点等	準備等
1 前時までの学習を確認する。 ○ 県内の市町村の位置や土地利用の様子などについて振り返る。 2 学習問題を確認し、学習の見通しをもつ。 なぜ、空飛ぶ新玉ネギという名前がついたのだろう。 3 空飛ぶ新玉ネギについて調べ、分かったことを話し合う。 ○ 記事を調べて分かったことをワークシートに記述する。 ○ 調べて分かったことを発表する。 ○ 他の玉ネギとの違いについて考える。 4 学習問題の答えをまとめる。 後藤勇吉が県内野菜を飛行機で運んだという歴史と、消費者に早く新鮮な状態で届けたいという思いから「空飛ぶ新玉ネギ」という名前が付いた。 5 他の地域の特産物を確認する。 ○ マンゴー、ピーマン、きゅうり、きんかんのブランド名について予想する。	○ 宮崎県の地形の高低や地形を生かした土地利用などについて、これまでの学習を想起させる。 ○ 写真を提示し、名前を予想させることで関心をたせ、学習問題へつなげる。 ○ 新聞記事の難しい語句については、全体で言葉の意味を確認する。 ○ 名前の由来だけでなく、生産者の思いや願いについても考えさせる。 ○ 他の玉ネギとの違いについて考えさせることで、地域の特徴を生かして生産されていることをつかませる。	掲示物 写真 TV 新聞記事 ワークシート 写真

6 次時からの学習の確認をする。 《新たな学習問題》 宮崎県には、どこにどのような特産物があるのだろう。	をもたせる。 ○ 新たな学習問題を立てることで、次時からの学習への見通しをもたせる。 ○ 夏休み中に調べた特産物を紹介し合い、白地図にまとめていくことを伝える。	白地図
--	--	------------

(3) 授業の実際

ア NIEに関心をもたせる工夫

導入時に、特産物である新玉ネギの写真から名前を予想させ、その意外性から学習問題へと導いた。また、「空飛ぶ新玉ネギ」という名前の由来を児童に予想させることで、新聞を活用して学習問題を解決していくという目的意識を高めていった。

調べ学習の際は、まず、教師が範読し全体で新聞記事の内容や難しい語句を確認していった。さらに、個人で記事を読み返す際もスムーズに調べ学習が進められるよう、難しい語句の読みや解説を提示資料に明記した。

授業の後半では、新聞記事について読み取ったことを自由に発表させる中で、書かれていた内容の整理（名前の由来、歴史、産地、特長など）を行い、新聞記事には、様々な情報が書かれていることに気付かせていった。

まとめる段階では、児童から出された学習問題に対する予想と、新聞記事から読み取った内容を関連付けながら、学習問題に対するまとめを行うことができた。

(記事)

(難しい語句の読みや意味)

【児童に提示した資料の例】

イ 授業後の児童の姿

学習を通し、新聞記事からたくさんの情報を得ることができるということ、新聞記事を使って知りたいことを調べることもできるということなどを体感できた児童が多かった。

(児童の感想より)

- 空飛ぶ玉ねぎという名前がついた理由が、予想とはぜんぜん違ってびっくりした。
- 特産物には、特別な名前がつけられているものがあることを初めて知った。
- 空飛ぶ玉ねぎの名前から、延岡の歴史についても知ることができた。
- 新聞記事から、空飛ぶ玉ねぎの名前にこめられた生産者の思いも知ることができてよかった。
- 新聞記事には、いろいろなことが書かれているんだなと思った。
- 新聞記事には、できごとだけでなく、歴史や生産者の願いも書かれていることが分かった。

4 授業後の活動

(1) 県内の特産物調べ

新聞から読み取った内容を調べる視点（産地、時期、名前の由来など）にし、個人の興味・関心に応じて、県内の特産物についての調べ学習を行った。また、発表会を行い、児童が調べた内容を関連付けたり総合させたりすることで、県の特産物は、地形や気候などの特色を生かして生産されているということについて考えを深めることができた。

(2) 合科的・関連的な指導

社会科の授業後は、国語科「新聞を作ろう」と関連させ、県の特産物についての新聞作成を行った。合科的な指導を行うことで、児童が調べ学習を行ったり文章を書いたりする時間の確保ができ、内容を充実させることにもつながった。

5 児童の変容

(成果)

本授業では、県の特産物を特集した記事を選んだことで、社会科学習のねらう「県の特色を生かした産業」についての理解をより深めることができたと考える。また、授業で取り扱った記事は、生産者の思いや願いにも触れられた記事であったため、自分と社会とのかかわりについて考えるきっかけにもなり、より新聞への関心も高まったようだった。

授業のほか、NIE の取り組みとして、年間を通しスピーチ活動やワークシートを活用した記事の読み取りも行ってきた。4 月当初は、文字の多い紙面や難しい語句に抵抗を示す児童もいたが、次第に、進んで興味のある記事を探して読んだり、教師の紹介した記事にコメントを書いたりする児童の姿が見られるようになった。

様々な記事の内容に触れることで、社会の出来事に関心をもたせるだけでなく、児童の語彙や社会的事象についての知識を広げることにもつながったと考える。

(課題)

授業の中で新聞を活用していくためには、普段から授業に使えるような素材をストックしておく必要がある。

また、新聞を活用した授業を展開していく際は、「この新聞記事を活用して何を学ばせるのか」「新聞を活用してどんな力を育成していくのか」をいったことを明確にした授業づくりが必要となってくるであろう。

さらには、自分たちでストックした新聞記事を調べ学習の資料の一つとして活用できるように、継続的に新聞を活用した教育活動の充実を図っていくことが求められる。